

1. 小児科医師からの相談事例。公園で 1m の高さのジャングルジムから落下した 4 歳の女兒に対し、頭部 CT 検査を施行した。検査結果は異常なしだったが、母親が、CT 検査の被ばくによる健康障害を心配して来院した。放射線科専門医にアドバイスを求めている。適切といえないのはどれか。1 つ選べ。

- a. 放射線の影響は無視できるほどわずかであり、心配する必要がないことを説明する。
- b. 母親との面談に際しては、看護師などを加えた複数人で面談し、面談内容を双方が保存できるように準備しておく。
- c. 頭部 CT の被ばく線量は将来の脳疾患の発症や不妊などの影響を心配する必要が無い低線量であることを説明する。
- d. 今回は将来の疾病を心配する必要は無いが、被ばくの影響は蓄積されるため、半年間は CT 検査を控えるように説明する。
- e. 事故状況から考え、早期の外傷性損傷を発見するには臨床上必要不可欠な検査であったことを再度理解できるように説明する。

一般の方からの FAQ といえる問題。科学的な知識を背景に落ち着いて接して安心を与える態度が求められます。

- a. 実効線量で数 mSv。その影響を知っておく。
- b. 医療におけるリスクマネジメントの常識。
- c.
- d. 検査が必要な状況が生じれば今回の検査の有無にかかわらず行う。
- e. 検査をオーダーした各科の医師が十分対応できていない時こそプロの出番です。

解答 d

2. 放射線科で 3 ヶ月間研修予定の 26 歳の女性医師に対して、どのような指導をしますか。適切なものを 2 つ選べ。

- a. 研修医が妊娠を希望していれば、核医学での RI 投与業務は免除する。
 - b. 個人線量計は妊娠中でないので胸部に着用するように指示する。
 - c. 防護衣は使用の都度折りたたんで所定の場所に返却する。
 - d. 妊娠が判明したときは放射線科医長へ速やかに報告するよう指示する。
 - e. 同種の検査でも撮影条件により被ばく線量が異なることを説明する。
-
- a. 放射線防御のための適切な教育を受けてそれを実践すれば、妊娠とその継続に影響する線量や法的基準に抵触する線量を被ばくすることはない

- b. ×非妊娠時でも妊娠可能な女性は腹部に装着する
- c. ×防護衣を折りたたむと所定の機能を果たさなくなる可能性がある
- d. ○妊娠の事実を届け出る先については事業所毎に作成する放射線障害予防規程に記しておく
- e. ○患者の体格に応じて撮影条件をかえる

解答 d, e

3. PET 診療に対する看護業務について適切なのはどれか。1つ選べ。

- a. 看護師は PET 診療検査薬の患者への投与はできない。
- b. PET 検査に従事する時間を 1 日 2 時間以内にする。
- c. PET 診療中は、X 線透視室で用いている防護衣を着用する。
- d. 妊娠可能な女性看護師は全員 PET 業務から除外する必要がある。
- e. 事前に陽電子放出核種における安全管理を含めた教育訓練を行う。

核医学会の HP にある「看護スタッフのための核医学 Q&A」というパンフレットを参照してほしい

- a. ×厚労省の通達により看護師は医師の指示のもとに注射薬を含めた薬物投与が可能とされている
- b. ×適切な防御処置を講じれば時間を制限する必要はない
- c. ×核医学で使用されるガンマ線はエネルギーが強く、X 線診断で使用する防護衣では十分ではない。
- d. ×法的規制を遵守すれば業務から除外する必要はない
- e. ○短半減期で実効線量率が高い PET 核種の特性を踏まえた安全管理について理解しておく

解答 e

以上、解答 1～3 は権丈 雅浩会員（広島大学）